

乳腺センター センター長就任のご挨拶

乳腺センター センター長 いたくら まさゆき
板倉 正幸

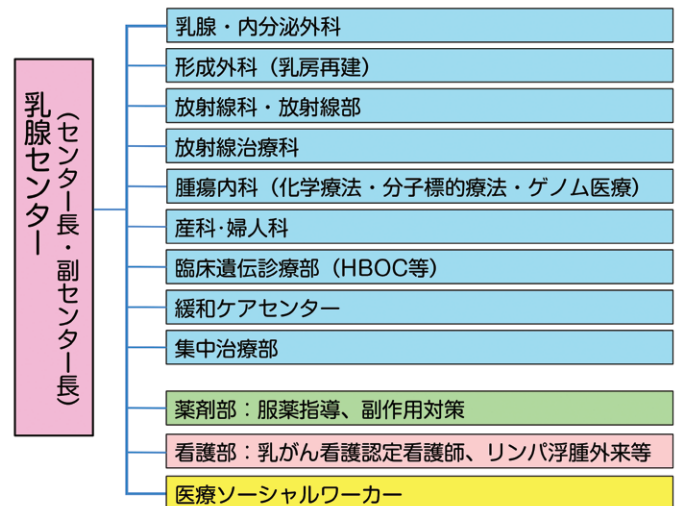
この度、4月1日より乳腺センター長を拝命しました板倉正幸と申します。

これまで当院乳腺・内分泌外科診療科長として、診療を担当してまいりました。乳がんは女性の部位別がん罹患率の1位を占め、年々増加しています。また近年の乳腺診療は放射線科および放射線部(画像診断)、病理部(病理診断)、放射線治療科(放射線治療)、腫瘍内科(化学療法・分子標的療法・ゲノム医療)、臨床遺伝診療部(HBOC等の遺伝診療)、産科・婦人科(若年女性の妊よう性維持)、形成外科(乳房再建)、薬剤部(薬剤指導・副作用管理)、看護部門(乳がん看護認定看護師やリンパ浮腫外来など)、医療ソーシャルワーカー等の連携による総合的な診療が求められています。

当院はこれらの領域の専門医が多数所属する大学病院であり、多職種が連携してチームとなった「乳腺センター」(図1)を開設しました。各診療部門間の連携をより綿密にして、患者さんの更なる利便性向上を図ります。

そして、都道府県がん診療拠点病院、がんゲノム医療連携病院として島根県における乳腺疾患診療の中心的役割を果たしていく所存ですので、皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

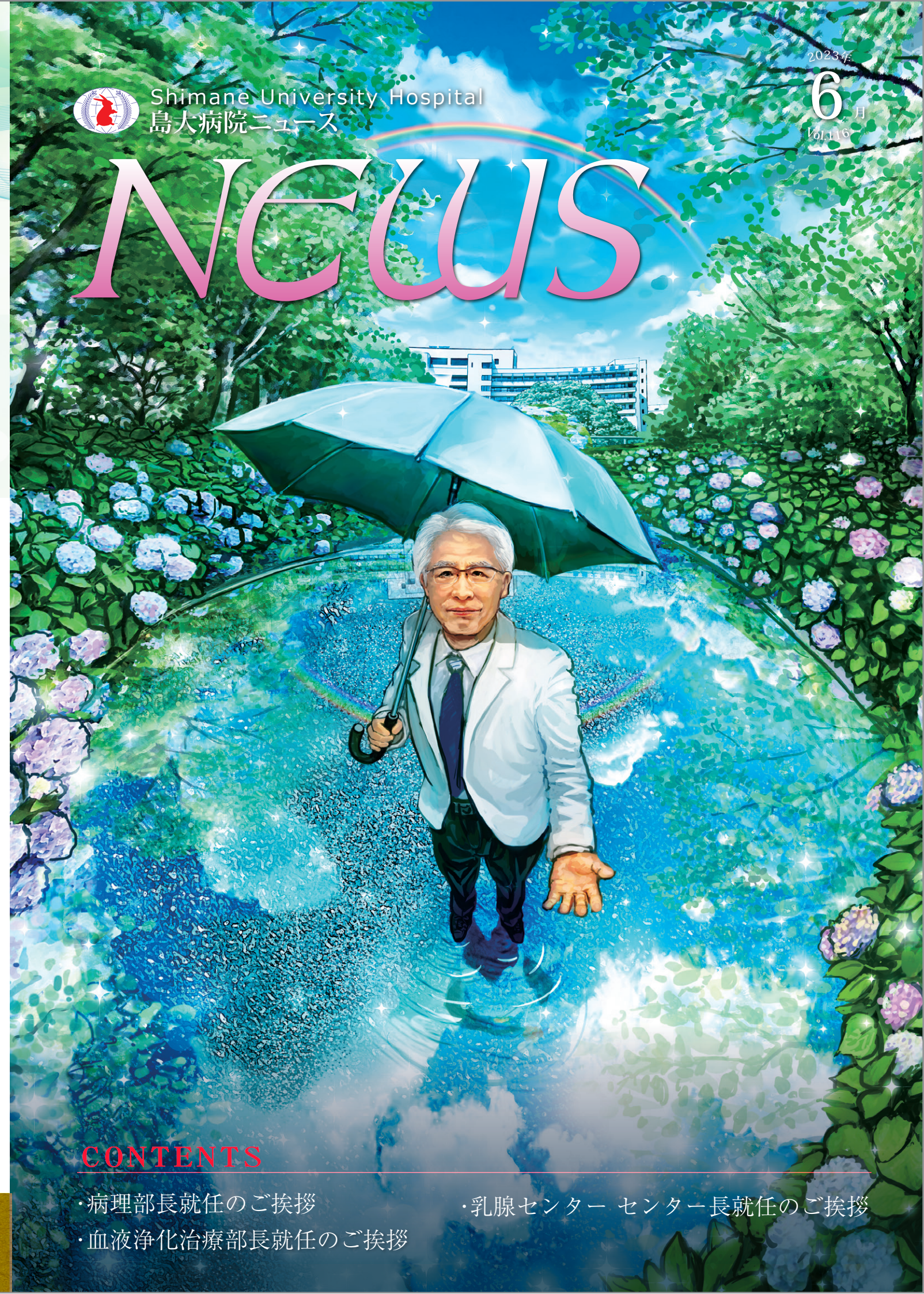
図1 乳腺センターの組織概略図



問い合わせ先 **乳腺・内分泌外科 外来、乳腺センター TEL:0853-20-2384**



NEWS



CONTENTS

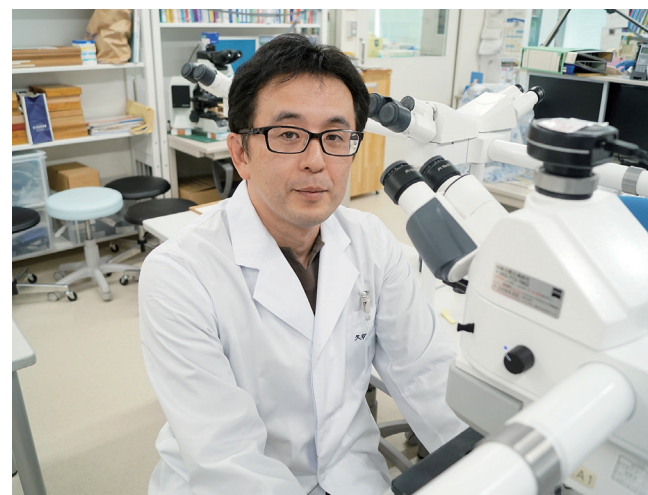
- ・病理部長就任のご挨拶
- ・血液浄化治療部長就任のご挨拶
- ・乳腺センター センター長就任のご挨拶

病理部長就任のご挨拶

病理部 部長 にいの だいすけ
新野 大介

4月より病理部長を拝命いたしました新野大介と申します。

病理部は当院の病理診断全般を担当する部門で、全ての臨床科からの組織診および細胞診検体に対する病理診断、細胞診診断を行っています。また、他施設の検体についても、迅速診断および免疫染色や遺伝子検索等の特殊検査の実施やその評価などに応じています。病理解剖については、院内だけでなく外部施設から依頼された症例についても受託解剖や出張解剖として対応しています。



当院は、島根県の中核拠点病院であり、その中で病理部の年間症例診断件数は組織診：6,391件、細胞診：6,055件、免疫染色：2,032件（2021年）で、病理診断という診療を通して、その役割を支えています。診断に際しては、カンファレンスを開催して複数の病理医による評価を行っているほか、細胞診も細胞検査士5名によるスクリーニングと専門医によるチェックを行い診断精度の向上に努めています。病理検体からの遺伝子検索（悪性リンパ腫診断、軟部腫瘍など）も実施しています。乳癌のセンチネルリンパ節転移の検索には分子生物学的手法である OSNA (one step nucleic acid amplification) 法を中四国の大学病院としては最初に導入し、転移巣見落としの防止に威力を発揮しています。

病理部の業務は、他の診療科・部門・センターとの連携で成り立っています。これからも病理部は丸となり患者さん中心の医療に貢献できるよう努力していく所存です。引き続きご指導のほどよろしくお願い致します。

問い合わせ先 病理部 TEL:0853-20-2426

血液浄化治療部長就任のご挨拶

血液浄化治療部 部長 かんだ たけし
神田 武志

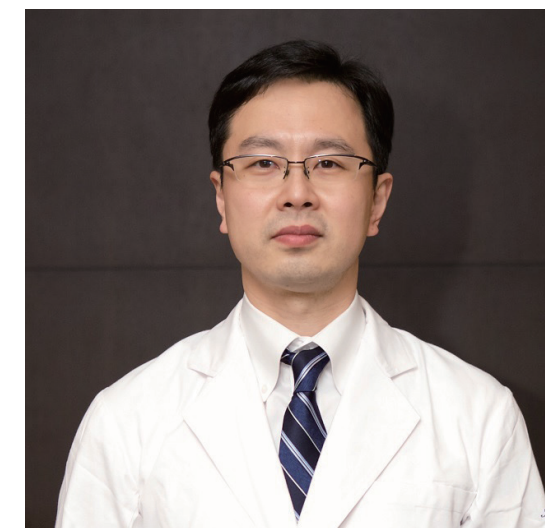
この度、血液浄化治療部長を拝命いたしました腎臓内科の神田武志と申します。

全国の透析患者は34万人を超え、島根県におきましては約1,800名で、人口当たりの透析患者数は増加し続けています。また透析患者の高齢化も進行しており、全国調査では平均年齢69.4歳で、高齢者は併存疾患も多いことから、今後血液浄化の重要性が増すことが予想されます。

当院の血液浄化治療部は透析ベッド10床で腎臓内科医、泌尿器科医、臨床工学技士、看護師の多職種で日々の診療にあたっています。急性、慢性腎不全に対する血液透析療法、維持透析患者さんの合併症治療のみならず炎症性腸疾患の顆粒球吸着除去療法等の他科の診療を支える役目も担っています。現在、週1回多職種でカンファレンスを行い、採血データ、レントゲン等の基本データの確認を行い治療方針の共有を図っています。

今後は腎臓内科・泌尿器科と協力しながら、腹膜透析、在宅透析、腎移植など腎代替療法を一元的に管理できるよう血液浄化治療部を発展させていきたいと考えております。

島根県全域の医療機関から信頼される血液浄化治療部として診療システムの強化に努めて参ります。今後ともご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



問い合わせ先 血液浄化治療部 外来 TEL:0853-20-2460



ご報告

MEセンター センター長就任のご挨拶

MEセンター センター長 ひだか まさあき
日高 匡章

2023年4月1日付けで、消化器・総合外科学教授へ就任しました日高匡章と申します。同時にMEセンターのセンター長を消化器・総合外科学前任教授の田島義証先生から引き継ぎました。

MEセンター (Medical Engineer Center) は、2009年4月開設されました。現在、所属メンバーは、センター長1名、副センター長(臨床工学技士長)1名、主任臨床工学技士3名、臨床工学技士13名で構成されており、主に院内の高度な医療技術、機器を安全に提供することを業務としています。

当院は高度医療を提供する病院です。そのため、機器の管理・運用(バーコードを用いた所在管理、消耗品管理、各メーカーとの連携)、機器のメンテナンス(定期点検・始業・機器の使用前後など)、安全な使用のための教育研修会の開催、修理経費削減のためのライセンス取得などを行っています。

またコロナ禍で有名となりました体外式膜型人工肺(ECMO)の管理、点検、始業時チェックなども当センターが担当しています。

直接診療とかかわる場面としては、手術部、集中治療部、高度外傷センター、血液浄化治療部、カテ室などと連携して機器搬送、設置、始業点検、使用中のチェック、使用後の点検などを行っています(表)。

これらの業務を、24時間365日安全に実施できる体制(院内管理当直、院外待機)を確立しています。

MEセンターは、大学病院の高度医療を支える重要な組織であることを自覚し、今後も安全で質の高い診療の提供に貢献していきたいと存じます。



写真1 MEセンタースタッフ(前列中央:日高センター長)

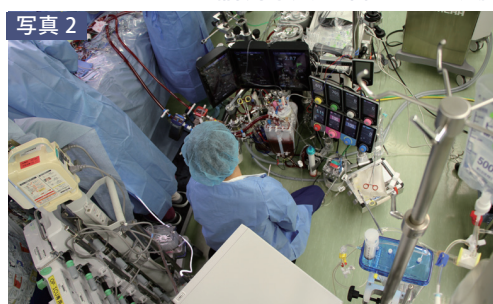


写真2 人工心臓



写真3 透析機器

表 代表的な機器

手術部	人工心臓、ダヴィンチ、自己血回収、内視鏡手術機器、電気メス、麻酔器、体外式膜型人工肺(ECMO)、眼科清潔野業務
集中治療部	人工呼吸器、大動脈内バルーンポンピング(IABP)、体外式膜型人工肺(ECMO)、持続的血液濾過透析(CHDF)、各種モニタ等
カテ室	心臓植込み型電氣的治療(CIEDs)、経皮的血管拡張術(PTA)、体外式膜型人工肺(ECMO)、血管内超音波検査(IVUS)、光干渉断層計(OCT)、アブレーション(経皮的ラジオ波熱凝固療法:RFA)、ハイパーサーミア
高度外傷センター	人工呼吸器、急速輸血輸液システム、頭蓋内圧モニタリングシステム、経皮的心肺補助法、経カテーテル的大動脈弁植込み術(TAVI)、各種モニタ
血液浄化治療部	血液透析(濾過)、各種アフエレス、腹水濾過濃縮等

問合せ先 MEセンター TEL: 0853-20-2489



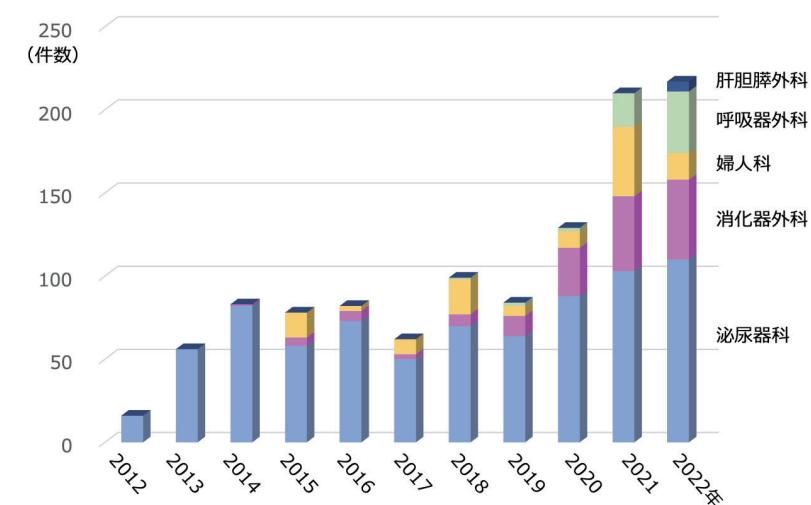
ご報告

ロボット支援手術推進センター センター長就任のご挨拶

ロボット支援手術推進センター センター長 ひらはら のりゆき
平原 典幸



図1 島根大学病院のロボット手術の年次推移



この度、ロボット支援手術推進センターのセンター長を拝命いたしました消化器外科の平原典幸と申します。ロボット支援手術推進センター運営に対する思いの一端を申し述べさせていただきます。

ロボット支援手術推進センターはより高度で、より安全な質の高い外科治療を安心して受けて頂けるよう、医師、看護師、臨床工学技士、医療安全管理部といった多職種によって構成されたセンターです。2012年に当院へロボット手術が導入され、これまでに1,000件以上の手術を大きな事故が発生することなく実施されてきました。当初は泌尿器科領域のみにロボット手術が導入されましたが、その後、消化器外科、肝・胆・膵外科、呼吸器外科、婦人科領域の手術に導入され、より多くの患者さんに安心して手術を受けて頂けるようになりました。さらに2022年10月よりロボット手術は2台体制で稼働しております(図1)。

ロボットという言葉は“冷たい響き”にとらえられがちですが、従来のカメラを用いた手術のような直線的な動きのみでなく、より人間に近い安定した動きを再現し、患者さんにより優しい医療を提供できることが期待されます。島根県における医療の「最後の砦」を守るためにも、院内のみでなく関連病院や近隣の医療機関の先生方のご指導も頂きながら、引き続き安全を担保した、より質の高い医療を提供できるよう取り組んでまいります。

皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

問合せ先 外科外来 TEL: 0853-20-2384

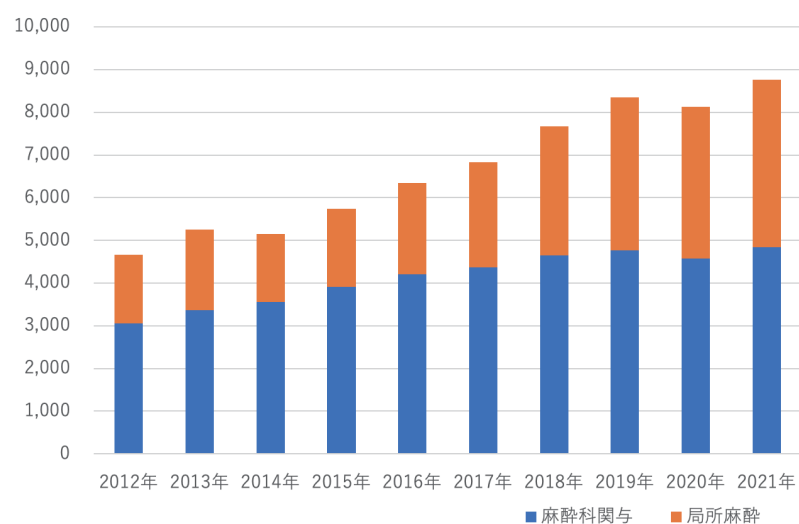




ご報告

手術支援センター センター長就任のご挨拶

手術支援センター センター長 にかい てつろう
二階 哲朗



島根大学医学部附属病院における手術件数推移

当院では年間 8,000 件を超える手術が行われています。手術は患者さんが抱える疾患を根本的な解決に向けた重要な医療行為であるとともに、その際には手術に関わる合併症を起こさないことが重要になります。手術で起きる合併症は時に生命予後の悪化にもつながります。当院では「安全・安心な手術の提供」という言葉をキャッチフレーズに合併症の軽減に努めています。

手術支援センターでは2つのチームが活動を行っています。ひとつは手術中、手術手技において合併症が生じた際や患者さんの全身状態が不安定になった際に、それらをレスキューする Surgical Rescue Team（サージカルレスキューチーム）です。もう一つは、手術の前にはできるだけ患者さんの全身状態の改善を行うケアに務める周術期管理チームになります。Surgical Rescue Teamでは、合併症有事の際に心臓血管外科、高度外傷センター、麻酔科、集中治療部の医師などが当該科と連携して診療にあたり、そして手術室看護師・臨床工学技士・輸血部など職種を超え協力し、合併症を最小限に抑えるように対応します。周術期管理チームも医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、歯科医師などが連携により術前の必要なケアを効率的に行い、患者さんにできるだけ良い全身状態で手術に臨んでいただきます。

当院では手術を受けられる患者さんの「安全・安心な手術の提供」をモットーに、これからも横断的なチーム医療を展開し、手術の合併症の軽減に努めてまいります。

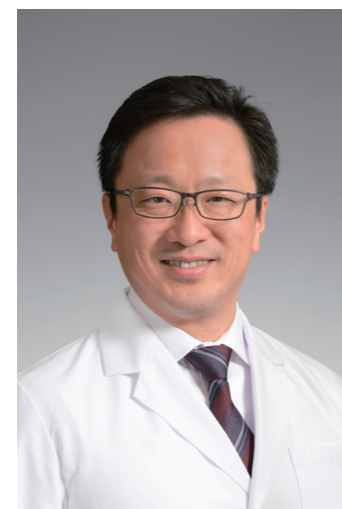
問合せ先 手術部 TEL : 0853-20-2430



ご報告

ドクターズクラーク室 室長就任のご挨拶

ドクターズクラーク室 室長 かなさき けいぞう
金崎 啓造



医師にはどうしても多くの事務作業が必要となります。しかし、私自身も若い時には診療録記載がタイムリーにできていなかった事、患者さんから依頼を受けていた診断書などの書類が遅れてしまいお叱りを受けた事などを経験いたしました。我々医師にとって、実際の診療行為から診療録記載や書類作成との間、同レベルの緊張感を持って継続するのが困難な場合も多々あります。

医師のこれらの業務遂行に際して、様々な補助・代行業務を行うのがドクターズクラーク（医師事務作業補助者）です。ドクターズクラークの業務管理、教育研修、評価や連絡・調整業務を行うためにドクターズクラーク室は設置されています。

病院の機能が正常に発揮されるためには、全ての職種の方が十分に機能する環境が必要です。ドクターズクラーク室の運営を介して病院機能の向上に努めて参ります。



問合せ先 ドクターズクラーク室 TEL : 0853-88-3039





島大病院ニュース 2023年6月

ご報告



島大病院ニュース 2023年6月

ご報告



臨床検査技師長就任のご挨拶

検査部 臨床検査技師長 ことう つきみ
後藤 月美

皆さま、こんにちは。

4月より臨床検査技師長を拝命しました後藤月美と申します。就任にあたり、多くの皆さまからのご支援とご指導に深く感謝申し上げます。

臨床検査技師長として、私は診療に必要な高品質の臨床検査サービスを提供することを使命としております。当院の検査部、輸血部、病理部は2017年に臨床検査の国際基準であるISO15189認定を取得し、日々の改善活動と定期的な審査を受けることにより、高い検査精度を維持しています。今後も引き続き、診療に不可欠な正確な情報を迅速に提供できる体制を整えてまいります。また、技術の進歩に常に目を向け、最新の検査技術や装置を導入し、さらなる品質向上に努めます。

患者さんにより良い診療を受けていただくためには、信頼と協力を基盤としたチームワークが重要です。そのため、私たちは積極的なコミュニケーションと知識共有を促進し、お互いをサポートしながら成長していく精神を大切にしています。検査部門は常にオープンな姿勢で皆さまのご意見やご提案を頂戴し、良いアイデアを実現するために共に努力してまいります。

これまで培われてきた技術と業績を受け継ぎながら、先進的な意見を取り入れ、より一層検査部の発展に努めます。ご指導ご支援のほどお願い申し上げます。



問合せ先 検査部 TEL : 0853-20-2415



2023年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

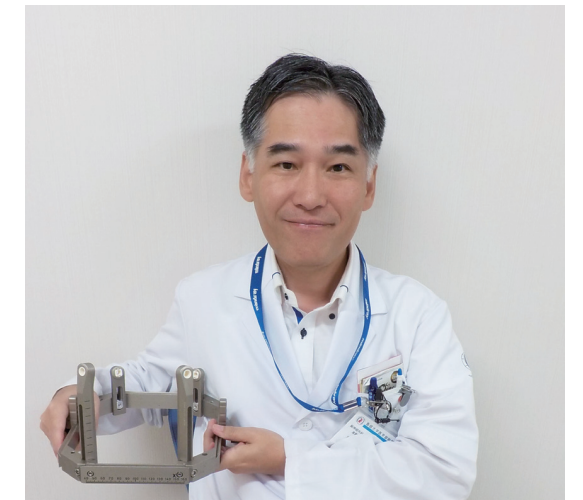


脳神経外科のご紹介

脳神経外科 准教授 ながい ひでまさ
永井 秀政

脳神経外科の対象疾患の中からトピックスを述べていきます。

脳血管障害では、未破裂脳動脈瘤が重要です。開頭クリッピング術では、無剃毛手術はもちろんのこと、術後の整容に配慮した開頭方法を行っています。またカテーテルを用いた脳血管内治療が増えており、各種のデバイスの進歩で数年前には治療できなかった脳動脈瘤が治療可能になっています。脳梗塞については、高度脳卒中センターと共同して“Join”というアプリで迅速に情報を共有し治療までの時間が短縮されています。慢性期の脳虚血も頸動脈内膜剥離術や頸動脈ステント術、そしてバイパス術で治療しています。



定位脳神経外科用のレクセルフレーム

脳腫瘍は形態診断や免疫組織診断から遺伝子診断へと移行しています。組織診断で全身麻酔下でのナビゲーションを用いた定位脳生検が行われ、腫瘍組織のタイプによりがん遺伝子パネル検査を中核拠点病院に依頼しており、有効な治療方法につながる可能性があります。良性腫瘍の下垂体腫瘍については経鼻的内視鏡術を行い、耳鼻咽喉科・頭頸部外科との共同手術をしています。

頭部外傷は高度外傷センターとともに頭蓋内圧を管理しています。

てんかんについては診断と投薬治療がメインです。パーキンソン病や本態性振戦は定位脳神経外科用のレクセルフレームを用いて脳深部刺激療法をしています。

小児疾患については、小児脳神経疾患治療センターとともに診療しています。脊髄は脊髄動静脈奇形や硬膜動静脈瘻、そして脊髄腫瘍を扱っており、整形外科と共同して手術を行っています。

問合せ先 脳神経外科学 医局 TEL : 0853-20-2245



2023年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ

AIによる認知症リスク検査について

脳神経内科 教授 ながい あつし
長井 篤

脳神経内科とヘルスサイエンスセンター島根の共同研究で長年行ってきた脳ドックを背景に、AIによる認知症リスク検査を松江市の企業 ERISA と共同開発しましたので、ご紹介します。

● 認知症リスク検査とは？

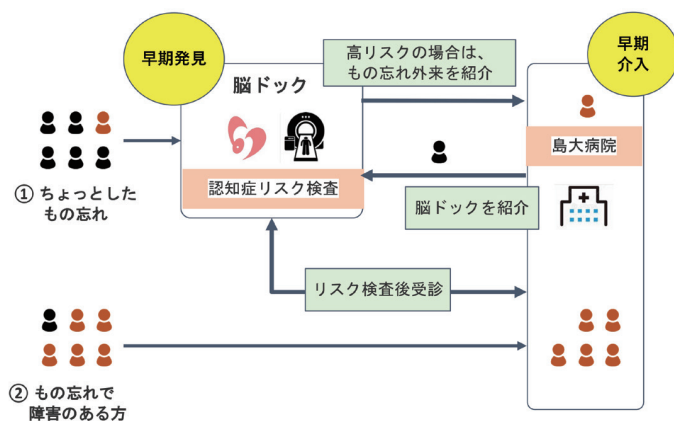
2000 例あまりの軽度認知障害の方の頭部 MRI を数年にわたり詳細に比較し、アルツハイマー病になる方がどのような脳萎縮の変化をするか AI を使った深層学習で分析した結果、3 年後の認知症になるリスクを 80% の精度で予測することに成功しました。

● 受検方法 (図 1)

ヘルスサイエンスセンターで撮影された MRI 画像データを分析ソフトで解析し、数時間以内に結果を返却します(裏面図 2)。

① 忘れやすさが少しあるが普通に生活されている方：ヘルスサイエンスセンターの脳ドック受検に認知症リスク検査をオプションで追加されることをお勧めします。該当施設の脳ドックは詳細な検査と認知機能テスト、動脈硬化リスクも同時に評価するため、結果の信頼性が高く、適切な生活指導が行えます。

図 1 検査の流れ



問合せ先 **ヘルスサイエンスセンター島根 TEL:0853-20-0649**

ヘルスサイエンスセンター島根
ホームページ ▶



② 物忘れのため日常生活に支障をきたしている方：当院の神経内科外来で受検が可能です。通常診療に加え、上記①での MRI 検査と認知症リスク検査を受けていただきます。かかりつけ医からの予約申し込みの際に「認知症リスク検査希望」とご希望を記載頂くと、事前に検査及び診察予定を調整してご連絡します。

検査についての問合せ先

内科学第三 事務室
TEL 0853-20-2198

予約についての問合せ先

地域医療連携センター
TEL 0853-20-2061

裏面あり



お知らせ AIによる認知症リスク検査について


● 結果を受けて

認知症の原因となる因子として、高血圧症、糖尿病、アルコール多飲のほか、食生活、社会活動低下、運動不足、睡眠の質などが関与していることがわかってきています。そして軽度認知障害があっても、回復する方、悪化せずに維持する方が多数おられます。脳の萎縮は生活習慣で改善する可能性があるため、リスクが高めに出た方は生活改善するように心がけていきましょう。

図 2 解析結果レポートの例

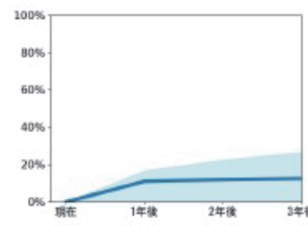
人工知能による評価

● 現在の脳の萎縮の程度
現在のあなたの脳の萎縮の程度を解析しました。

あなたの現在の脳の状態は、
 問題ありません。

● あなたの脳の構造が年齢相応であることを表します。
● あなたの脳の萎縮の程度が、同世代の方よりも進んでいることを表します。
(注意) この結果は、認知症を診断するものではありません。

● 3年後の認知症リスク
あなたの認知症リスクを予測しました。

検査日から3年後の認知症を発症するリスクは、
 1.2%です。

健康者のうち、75%の人が、グラフの青い領域の幅の中で推移します。
(注意) この結果は、3年後の認知症発症を判断するものではありません。

● 総合評価

認知症のリスクは低いです。

認知機能の低下は、適度な運動や栄養バランスの取れた食事習慣等によって予防できると言われています。毎日の生活に取り入れて健康維持に努めてください。





ご報告

「総合診療医の育成」が 文部科学省に取り上げられました！

総合診療医センター 助教 さかくち こうた
坂口 公太

● 島根発!地域医療現場と大学を結ぶNeural GP Network

今回、総合診療医センターの取り組みが国立大学附属病院第3期中期業務実績において優れた事例として紹介されたので報告させていただきます。

当センターのミッションは、へき地・離島を含むすべての地域住民が安心して過ごせるよう優秀な総合診療医を養成し、持続可能な医療を提供することです。

少子高齢化県である島根では、診療、介護を含めた包括的医療の提供が必須であり、総合診療医の育成が急務です。しかしながら、大学病院のみでは、よくある疾患や家族、地域をみるという総合診療医の育成は容易ではありません。そこで、私たちは島根発で育てていく「総合診療医養成プロジェクト」(Neural GP Network)を2021年に立ち上げ、17の医療機関そして150人近いメンバーが年齢や役職、出身大学を問わず連携できるネットワークを構築しました。

結果として、大学と地域の繋がりが生まれ、県内総合診療医割合は全国的平均約2%の中島根県では約10%と突出し、県内総合診療医割合は3年連続で日本一を達成することが出来ました。島根大学内でも取り組みが評価され、2年連続優良教育実践表彰を受けることが出来ました。また、地域に住みたい人を増やす公共的なインフラ価値を提供しているとして2022年度にはGood Design賞金賞も受賞することが出来ました。

これからも地域の皆様と協働しながら総合診療医の育成を軸に新しい医療の形を提示し続けていきたいと思っております。

問合せ先 総合診療医センター TEL: 0853-20-2217

写真1 文部科学省HPより抜粋

附属病院・附属学校

島根大学

○地域で活躍できる医療人の育成

専任教員を配置した総合診療医センターを設置し、「診療・教育・研究の3機能を有する総合診療医センターによる総合診療医の養成に関する戦略的プロジェクト」を始動させ、Slack、ZOOM、Readmine、Googleアプリ+、Dropbox等のITツールを駆使したバーチャルオフィスの構築により、地域の医療機関との連携体制を更に強化するとともに、島根県内のほぼ全員となる総合診療専門医165名が参加して活発な議論を開始している。また、症例別の動画コンテンツ141本を作成してウェブページ上に無料掲載したほか、ワークショップ、しまね総合診療の集い、総合診療専門医プログラム説明会、医学科5年生並びに地域の総合診療医による医学科4年生を対象とした講義等を開催するなど、総合診療医の養成に向けた取組を推進している。



写真2 当センターのコンセプト



写真3 17の医療機関そして150人近いメンバー



ご報告

写真1 旧装置(16列マルチスライスCT)



写真2 新装置の搬入



写真3 新装置(80列マルチスライスCT)



Ai専用CT装置を更新しました

Aiセンター センター長 たけした はるお
竹下 治男
放射線部 主任診療放射線技師(Ai認定診療放射線技師) かなやま ひでかず
金山 秀和

「Ai」という言葉をご存知ですか?「Ai」とは、Autopsy imaging (オートプシー・イメージング)の略語で、CTやMRI等の画像診断装置でご遺体を検査し、死因究明等に役立てる検査手法のことです。

当院は、2011年よりAi専用CT装置を設置したAiセンターが稼働し、画像診断による死因究明や医療安全の確保、警察捜査への協力、臨床研究への支援を行ってきました。しかし、Ai専用CT装置は2005年に臨床機として導入した16列マルチスライスCT(写真1)をAiセンターに移設し使用していたため近年は故障やトラブルが多い一方で、警察捜査におけるAiCT撮影の需要は年々高まり装置の更新が望まれていました。この度更新したAi専用CT装置は、80列マルチスライスCT(写真2、写真3)であるため広範囲を高出力で撮影でき、被ばくを考慮することなく画質を担保するための高線量撮影が求められるAiに適したCT装置となりました。

Aiセンター稼働時はAiを行う体制は全くありませんでしたが、院内の関係部署や警察等の外部機関と試行錯誤した結果、今では欠かすことのできない死因究明方法となりました。死因を解明することは残されたご遺族のためだけでなく、未来の公衆衛生や社会秩序を保つために大変重要なことと考えます。今後も新たなAi専用CT装置とともに、Aiセンターは先進的な社会貢献を推進していきますのでよろしくお願い致します。



島根大学医学部附属病院 AiセンターHP
<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/centerAi/index.html>

問合せ先 放射線部(担当:金山秀和) TEL: 0853-20-2435





ご報告



ご報告



高い安全性と根治性、低侵襲な脳動脈瘤治療 ～小開頭術の特徴について～

脳神経外科 講師 よしかね つとむ
吉金 努

致命的な病気として脳動脈瘤が破裂することで生じるくも膜下出血があります。脳動脈瘤が破裂すると50～60%の死亡率となり、また20～30%程度で重篤な後遺症を残すことがわかっています。しかし、脳動脈瘤は必ず破裂するというものではないため、当施設では①破裂する可能性が高いと考えられる方、②神経を圧迫して神経症状を呈している方、③既に破裂している方（基本的に緊急手術となります）に治療をご説明しております。

治療方法は「開頭術（クリッピング術）」と「血管内手術（コイル塞栓術）」があり、開頭術は高い安全性と根治性が最大のメリットですが、時として整容面で問題を生じることがあります。

当院では開頭術に特化した専門施設で研鑽を積んだ専門医が術直後から整容面が保たれるように様々な工夫を行っており、治療を受けて頂いた患者さんからも高い評価を頂いております。また開頭術は一般的には4～6時間の手術時間を要しますが、当院における小開頭手術は1～2時間と身体にかかる負担も極めて少なく、ご高齢の患者さんも早期退院が可能です（図1、図2）。なお、小開頭術の適応かどうかは当院での精査が必要です。

当院では患者さんにとって最良と考えられた際に開頭術を推奨しています。患者さんが安心して相談できるようにセカンドオピニオンの体制も整えておりますので、診断や治療についてお気軽にお問合せください。

図1 脳動脈瘤クリッピング術（左：クリッピング前、右：クリッピング後）

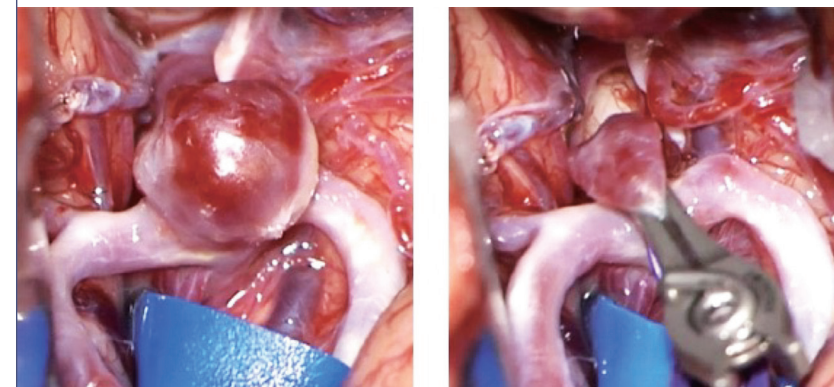
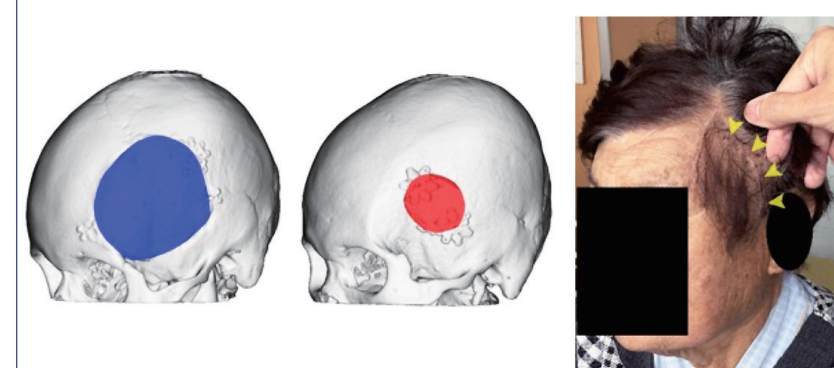


図2 脳動脈瘤に対する小開頭手術について（左：従来の開頭範囲 中央：小開頭 右：小開頭の皮膚切開（術後1週間目））



春のこども絵画展

小児センター 病棟保育士 つばき あつみ
椿 敦美
チャイルドライフスペシャリスト くろさき
黒崎 あかね
小児科 教授 たけたに たけし
竹谷 健

B病棟1階にある市民ギャラリーに、子どもたちの絵が飾られています。

ある日、中学生の女の子が、絵が飾られていない市民ギャラリーの横を通るたびにさみしい気持ちになると話してくれました。そして、「子どもたちの絵を飾ったら、この廊下を通る人たちが楽しい気持ちになるかも!」と提案してくれたことをきっかけに、1歳から18歳までの子どもたちが、「春」をテーマにして、お誕生日会の思い出やお友達とお花見したい気持ちを絵に描いてくれました。白い壁が、たくさんの優しい絵によって見違えるようになりました。

子どもたちの絵を見て、少しでも多くの方が温かい気持ちになることを願っています。

7月末まで展示してありますので、ぜひ見に来てください。



問合せ先 小児病棟 TEL: 0853-20-2616

問合せ先 脳神経外科外来 TEL: 0853-20-2386

